

H31.01.20 土淵地区のふれあいと賑わいのあるまちづくり懇談会 要約

No.	懇談事項	説明	担当部名
1	<p>(仮称)前潟駅の新設について</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 通勤や通学の利便性を考えると、駅の北口も整備していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 北口整備は自由通路の建設を要し、費用がかさむため、まずは駅を造り、周辺の開発の動向を見ながら考えてまいりたい。 	建設部
2	<p>交通対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 交通量が増えた場合に横断歩道などの設置は考えているのか。 ■ インフラ整備はごみ処理場が建設することによって優先的に整備されるのか。 ■ 道路幅が狭く、交通事故等の心配があるため、道路整備を優先してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 交通量は毎年変化すること、道路ができることによって変化する部分もあるので、その都度、横断歩道の必要性などについて検討する。 ■ インフラ整備はごみ処理施設とは別に進めるものと考えている。 ■ 道路拡幅は要望として承る。ご意見の箇所は、東西の道路がないため、抜け道として車が入っている。都市計画道路として東西方向の路線もあるので、どちらが良いかといったことにもなると思う。検討したい。 	建設部
3	<p>上厨川地区土地区画整理事業跡地の土地利用</p> <p>ア 地区計画の策定による総合的な整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「地区計画」の手法を活用すれば、市街化調整区域のままで開発できるのか。 ■ 市が認可してから何もせず、平成28年度に許可を取消したことが理解できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自治体が設置する公益的な施設のほか、このエリアはこうする、どんな事業者が入るなど具体性を持った計画を地区計画として策定すれば、調整区域のままで開発が可能である。 ■ 平成17年6月に組合設立の認可を行い、開発は可能となったが、予定通り進まないため、市は指導や勧告をしてきた。その後、組合から事業収束の申し出があり、その手続を進めた結果として、平成29年2月に認可取消になったものである。 	都市整備部
	<p>イ 廃棄物エネルギーの利活用による地域振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 整備候補地は2か所に絞られているのか。 ■ 候補地発表はまた延期するのか、3月に決める予定か。 ■ 最終的には市が住民の意見や要望を聞きながら「決定」ということか。 ■ 都南東小、見前小のぜん息のデータはあるか。 ■ ごみ処理の広域化に反対する。各自治体が責任を持って自分のごみを処理すべき。市は土淵地区の住民の健康を守る行政をやってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「都南工業団地付近」と「盛岡インターチェンジ付近」の2か所について、「優先的に協議」となっており、実質的に2か所の状態である。 ■ 整備予定地1か所の選定は3月までの決定を目指している。 ■ 平成31年3月を目指している状況の中で、2か所の候補地に説明を行い、状況判断をしていきたい。 ■ 学校保健統計調査における気管支ぜんそくのり患率について、都南東小学校については、平成25から30年度で、8.1%、6.1%、2.3%、2.3%、0.0%、0.0%。見前小は、5.5%、4.6%、4.7%、0.0%、0.0%、0.0%という状況である。 ■ どちらの候補地についても、十分に配慮しながら進めていきたい。 	環境部

H31.01.20 土淵地区のふれあいと賑わいのあるまちづくり懇談会 要約

No.	懇談事項	説明	担当部名
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 推進協を窓口で、市のデータを再度検討する、あるいは勉強会等を設定してほしい。 ■ 武蔵野市の施設などが資料に掲載されているが、どのようなスペックの施設を建設するのか。予算の問題で低スペックにすることはしないのか。 ■ 焼却灰は現在どのように処分しているのか。 ■ 周辺にダイオキシンが蓄積されないのか。 ■ 推進協は、ただの案内役なのか、地域の結論をまとめる権限を持たせているのか。 ■ 仮に、整備予定地に決まった場合、道路の対応等については担当課を残すのか。 ■ 「反対」等の活動がある前潟を主体に説明会を開催してほしい。 ■ 3市5町で案分した形で工事をすると、市の財政的にも楽な面があると思われる。 ■ 焼却施設で健康被害等の問題が起きていないことを全国各地の状況も含め、測定データを示し、懸念者に納得いただきたい。 ■ 排ガス処理の技術的な面で、10年後には、より良い設備ができ、懸念が減ると思われる。 ■ 整備予定地の決定に当たり、例えば反対者がいても市は方向を決めるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 説明会等の開催については推進協と相談していきたい。 ■ 紹介した例も含めて最新レベルのものに取り組む。自主基準についても、同様の考えで設定していきたい。 ■ 焼却灰については埋め立てており、新施設稼働後も、各市町が今使用している最終処分場に埋め立てる想定である。 ■ 焼却施設を建設する場合は3年くらいかけて、データも公開しながら、環境影響評価を必ずやることになっている。またクリーンセンター周辺でも、環境基準は1,000ピコグラムTEQ/gとなるが、1.6から4ピコグラムTEQ/gくらいの低い値で推移しており、蓄積しているレベルではないと考えている。 ■ 推進協には、街づくりの関係で焼却施設、JR新駅、都市計画道路の整備などトータルで協議をという部分で、テーマの設定や、町内会へのお声掛けなどで御協力いただいている。 最終的な判断については、皆様からの御意見を踏まえ、推進協と相談をしながら、市の方で判断しなければならない部分も出てくると思う。 ■ 過去の例では、各部が各々の要望に対応し、環境部が連絡調整、進捗管理をしてきた経緯があり、同様の方法が考えられる。 ■ 説明会などは全体の6町内会で行うことにしていたので、個別の形が可能なか、必要かについて、推進協の各会長さんたちと相談させていただきたい。 ■ 人口や税収も減る中で、新施設の建設に対応するためには、8市町で経費を出し合い運営することが必要だろうと、広域化を進めている状況である。 ■ 健康を害する物質については、法律で定めて排出を規制している。本日お示ししたのは、基準値はあるが、さらに低い値で管理していることを、御理解いただきたい。 ■ 技術の進歩については御指摘のとおり。ごみ処理施設の建設では、図面を描いて、このような物を造れという発注方法ではなく、性能を示して、それを満たす施設を建設せよという「性能発注」を行う。さらに提案を受け、良い提案があれば取り入れるという形である。 ■ 反対という御意見もいただいているが、説明会や懇談会を通じて、理解を深めていただければと思っている。 候補地を選ぶ際は、総合的な評価ということで進めている。コストや地域の御理解、地域にプラスになる提案などの部分も判断のひとつとしていきたい。 	

H31.01.20 土淵地区のふれあいと賑わいのあるまちづくり懇談会 要約

No.	懇談事項	説明	担当部名
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 風が西から東に吹くこの地域に、ごみ処理施設は向いていない、個人的には反対である。 ■ 次の機会には、時期的な風向き等がわかる資料を示してほしい ■ 現時点でごみ処理場とぜん息は関係ないという認識で良いか。 ■ 施設周辺に運動施設等整備した場合、地域住民に優先的に使用させていただきたい。 ■ 仮に、施設ができてぜん息の児童等が増えた場合に調査することを約束すべき。 ■ 公害問題もクリアし、インフラ整備も優先的に進めてもらえるのであれば、私は賛成である。 ■ 事例は示されたが、土淵地区のまちづくりとして考えている施設にはどのようなものがあるのか。 ■ デメリットの情報を知りたい。懇切丁寧に説明してほしい。 ■ 熔融炉やストーカ炉などあるが、焼却方式は決まっているのか。 ■ 商業施設があり、住民がたくさん住んでいるところにごみ焼却施設を建設する理由がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 盛岡の概ねの風向きとして、南や南南東から吹く風が年間を通して多いというデータがある。ただ地形などにより、御意見のとおりの部分もあるうかと思う。 ■ 次回以降、風向等の資料は示す。 ■ 私たちとしては、関係がないのではないかと考えている。 ■ どのような施設が良いかということも含めて、地域との話し合いの中で、地域優先という決め方もできるのではないかと考えている ■ いろいろな調査等も盛り込んでいきたい。 ■ どのような施設を造っていけばいいのかは、地域の方々と相談しながら、検討していきたいと考えている。 ■ 前回の質問の回答を取りまとめた形で今回はお示しした。今の御意見も参考にして、どのような形で情報を提供すれば良いか検討し、お示していきたい。 ■ 建設や設計の前に、環境影響評価という環境を確認する手順があり、そのあたりで炉の形式を決めるため、現時点で決まったものはない。 ■ 技術的、環境的な面でも今の施設は住宅地にあっても大丈夫なレベルと聞いている。それを前提として、どの地域が良いかについて、運搬や建設のコストなど全体的に検討して候補地の選定を進めてきた。 また災害発生時の避難拠点や、環境学習の役割などのほか、エネルギー活用の点でも、まちの近くにあることで、活用しやすいものと考えている。 	